

平成28年度水稲・園芸作物振興計画

島根おおち地区本部

1. 水稲の生産振興

平成27年における全国の水稲作付け面積は140万6千haで、飼料米等の新規需要米が増えたことが影響し前年産に比べ6万8千haの減少となっています。

米の全国作況指数は100で予想収穫量744万tで前年産に比べ43.8万tの減少が見込まれており、全国的に生産数量目標の751万tを7万tも下回る水準となり、需給改善が図られる状況となりました。需要量は772万tの見込みとなっており、平成28年6月末現在では205万tの持越在庫となる見通しです。

島根県の作況指数は98で「やや少ない」となり、管内においては6月中旬以降気温が低い期間や日照時間が少ない期間があり、一部では「いもち病」の発生等もあったものの、7月以降は高温、多照で推移したことから生育は回復し、出穂期はおおむね前年産並となりましたが、9月の収穫期の天候不順により収穫の遅れにより収穫量の減少となっております。

こうした中、販売に結びついた米として生協ひろしまへの安定供給が望まれている特別栽培米「石見高原ハーブ米コシヒカリ®」と高温に強く品質が安定し米卸へも定着しつつある「ハーブ米きぬむすめ」の生産拡大を図り、良質米のPRと関東方面への販売拡大に努めます。「つや姫」においては、コシヒカリの品質低下が著しい地域に優先的に作付けを図ります。

米価の低迷により農家所得が減少していることから、販売先に結びついた米づくりに重点を置き、非共同計算方式の導入により、農家の所得向上を図り、戦略作物である「新規需要米」の生産体制の整備に取り組み、米の需給調整と所得向上を目指します。

(1) 【販売に結びついた米生産の取り組み】

特別栽培米「石見高原ハーブ米」の生産量確保と、近年評価の高まっている「つや姫」の栽培面積の拡大を図り、消費者や販売店の要望に即した「販売に結びついた米づくり」に取り組むことで農家所得の向上を目指します。

1) 特別栽培米「石見高原ハーブ米コシヒカリ®」の振興

生協に結びついているハーブ米コシヒカリにおいては、品質維持と安定供給を目指し生産面積の拡大に取り組みます。

- ・生産地域 邑南町
- ・販売先 生協ひろしま・生協CS
- ・供給量 28年度以降必要量 500t 栽培面積 160ha

2) 特別栽培米「石見高原ハーブ米きぬむすめ」の振興

品質の安定しているハーブ米きぬむすめについては、生産数量の確保と販売先への定着を図ります。

- ・生産地域 江津市桜江町 川本町 美郷町
- ・販売先 東京
- ・供給量 28年度以降必要量 100t 栽培面積 30ha

3) 特別栽培米「つや姫」の振興

高温登熟性に優れ良品質米となりやすく、コシヒカリと同様の作期と同等の販売価格が見込めるため、コシヒカリの1等米比率の低い地帯で代替品種として栽培に取り組みます。

- ・生産地域 江津市桜江町 川本町 美郷町
- ・供給量 栽培面積 16ha

【特別栽培米の生産計画】

年度	ハーブ米コシヒカリ		ハーブ米きぬむすめ		つや姫	
	面積(ha)	生産量(t)	面積(ha)	生産量(t)	面積(ha)	生産量(t)
H27(実績)	149		19		9	
H28(見込み)	151	568	22	94	16	72
H29(計画)	164	617	30	128	20	90
H30(計画)	172	647	30	128	20	90
H31(計画)	180	677	30	128	20	90

(2) 【地力増進対策による品質及び収量の向上】

米価の低迷により堆肥や土壌改良材等の土づくり資材の使用が減少し、地力低下や気象変動による品質悪化・収量減少が問題となっております。土づくり資材を利用し地力の回復を図り健全な稲体づくりを行うことで、余分な肥料・農薬の生産コストの低減と、品質・収量の向上に取り組みます。

- 1) 堆肥及び土壌改良材の施用により品質・収量の向上につなげます。
- 2) 堆肥散布地域、土壌改良材散布地域をローテーションで指定し、効率的な散布を行います。

(3) 【地域による品種別作付け目標と品種構成】

施設や労働力の効率的な配分を目指した作付け体系の普及を図るため、管内の品種別作付け割合は次のとおりとし、「きぬむすめ」の作期を広げることにより栽培面積の拡大を進め、平坦部の品質改善に「つや姫」の普及を進め、地帯別の作付け体系に取り組みます。

1) 管内における米の作付け割合

ハナエチゼン	5%	早期需要米対応
コシヒカリ	60%	高品質・良食味対応
きぬむすめ・つや姫	25%	作型分散、高温障害対策、担い手・集落営農対応
その他	10%	もち・醸造用含む

2) 地帯別作付け割合

邑南地域	コシヒカリの1等米比率が過去3年において90%前後であり、品質が安定し、販売先に結びついているコシヒカリの生産量を確保します。
美郷・川本地域	コシヒカリの1等米比率が過去3年において70%台であり、今後、コシヒカリを40%に抑え、きぬむすめとつや姫を45%に向けて拡大します。
桜江地域	コシヒカリ1等米比率が過去3年において50%台であり、コシヒカリを20%に抑え、きぬむすめとつや姫の作付けを65%に向けて拡大します。

【地帯別作付け割合】

品 種 \ 地 域	邑南地域	美郷・川本地域	桜江地域
ハナエチゼン	5%	5%	5%
コシヒカリ	80%	40%	20%
きぬむすめ・つや姫	10%	45%	65%
その他	5%	10%	10%

3) 良品質米の生産と地帯別作付け誘導に向けた対策

高温対策による遅植を進め、良品質米の生産に取り組みます。

○配達時期別価格差

- ・ 4月～5月中旬配達（～5/20） 通常価格
- ・ 5月下旬配達（5/23～） 通常より10%下げた価格

(4) 【生産調整拡大に伴う戦略作物の振興】

米の消費減退による米の過剰基調が一層進んでおり、今後も生産調整拡大が予測されるため転作作物の選定が急務となっています。交付金を活用し国が示す自給率向上を目的とした戦略作物を中心に以下の作物の振興を図ります。

1) 新規需要米の振興

生産調整と農家所得の確保を目的として水田を活用した新規需要米について関係機関と連携し振興を図ります。

「飼料用米」・・・担い手・中核農家を対象に団地化を図り、交付金を活用した所得の確保としてうるち米「きぬむすめ」による飼料用米の一括管理方式に取り組めます。

「飼料用稲」・・・団地化を図り、畜産農家及び収穫組織と連携し取り組みます。

2) 大豆の振興

水田活用の交付金対象である大豆について、関係機関と連携し生産調整に対応すべく栽培面積の拡大及び団地化を図って行きます。

(5) 【生産履歴支援システムの活用と安全対策の取組】

1) 種子更新の徹底と生産履歴支援システムの活用により全量「JA米」を目指します。

2) 「農薬の適正保管・適正使用運動」を展開し、農薬の適正使用を徹底します。

3) 米の安全確保と品質の向上、環境の保全、従事者の安全へ向けた取り組みを実施します。

(6) 【各種試験圃の設置】

1) 高温障害対策として遅植え推進に対する作業体系を示します。

2) ハーブ米及びつや姫の新たな栽培指針を検討します。

3) 新たな肥料・農薬について実証圃の設置を行います。

4) 低コスト省力化による生産として、肥料・農薬等の低コスト資材や省力化を目的とした体系の試験をします。

(7) 【農事組合法人・集落営農組織・担い手への支援】

担い手の不足や耕作放棄地の解消、水田フル活用を図り、関係機関とTACが連携し経営の安定と多角化を支援します。

- 1) 土地利用型作物としてキャベツ・広島菜を提案し、複合経営による組織の経営安定を支援します。
- 2) ハウスを活用した園芸作物として、ミニトマト・花卉を提案し、組織・担い手への経営安定を支援します。

2. 園芸品目の振興

平成30年には米の減反政策が廃止となる見込であり、TPP交渉の結果は大筋合意によって日本が輸入する農林水産物のうち81%の品目において関税が撤廃されることが決定しました。

農業情勢が厳しくなるなか、農地の有効活用による所得率の高い園芸品目への転換を勧め、統合JAのスケールメリットを生かし、地区本部における販売力の強化及び生産コスト低減に努め、生産者の所得向上を図ります。

(1) 販売機能強化による有利販売

- 1) 重点品目の販売について市場との情報連携により有利販売に努める。
- 2) 各品目において規格の統一を図るため、目合わせ会の充実を図ります。
- 3) 全品目生産履歴の記帳に取り組み、出荷前には確認を徹底します。

(2) 生産指導体制の強化による農業所得の向上

- 1) 本所指導員・支店相談員・TACと連携し巡回頻度を高め、安心して作れる体制強化を図ります。
- 2) 重点品目の栽培推進を図るとともに、計画的な講習会を実施し、栽培技術の普及を図ります。
- 3) 重点品目において課題解決に向けた試験等を実施し栽培技術の普及を図ります。
- 4) 予約注文による出荷資材を出来るだけ安価に提供することに努めます。

(3) 地域農業を守る多様な担い手づくり

- 1) 認定農業者・認定新規就農者・集落営農・農業生産法人等の育成を推進します。
- 2) 法人座談会を開催し、法人向きの各種提案に取り組めます。
- 3) 女性・高齢農業者でも取り組み易い品目の推進に取り組めます。

《重点品目の振興》

【1. 白ネギの振興】

(事業費 700 千円)

- 1) 白ネギ部会を中心に生産力、品質向上を図るとともに、販売促進活動を実施しPR活動を行います。
- 2) 白絹・軟腐病対策として土壌消毒技術の普及を図ります。
- 3) 面積拡大を目指して以下の助成対策を実施します。
 - ①苗助成 10a以上の生産者 100円/箱
 - ②面積拡大部分助成 200円/箱 (H27年作付け3a以上の生産者対象)
 - ③新規作付け助成 5a以上作付け 苗代金半額助成

【2. ナスの振興】

(事業費 250 千円)

1) 栽培面積拡大を目指して以下の助成対策を実施します。

- ①新規生産者に支柱購入半額助成を実施します。
- ②面積拡大部分に支柱購入半額助成を実施します。

【3. ミニトマトの振興】 (事業費 400 千円)

1) 良品質、収量増を目的に以下の助成対策を実施します。

- ①需要期（9月）の良品質、収量増を目的に遮光資材購入助成を行います。
- ②天井ハウスビニールの更新に助成します。(助成額 事業費 1/3 (上限30,000円))

2) 全農供給品種「アンジェレ」の本格導入の検討として、「JAしまね」の取り組みと連動し試験栽培を行います。

【4. キャベツ・広島菜・レタスの振興】 (事業費 800 千円)

1) キャベツは県域品目に設定されている品目であり、各市場、県、JA本店、各地区本部と情報交換を行い有利販売に努めます。

2) 広島菜は加工用原菜として需要があり、必要面積の作付け推進を行ない良品質・収量増を図るために生産指導を行います。収量確保のためには根こぶ病対策が必要であり、予防剤に対する助成を行います。また、根こぶ病対策での試験を行います。

根こぶ病対策

予防剤（オラクル粉剤）20k/10a 散布 1/3 助成

3) 移植機を1台増台し、適期定植による収量・所得の確保を目指します。

4) キャベツ・広島菜生産者を中心に、比較的作業が容易で根こぶ病の心配のない春作レタスの作付け推進を行い、所得の確保を目指します。

レタス 出荷箱代助成 1/4 助成

【5. 畑用土壌改良材の助成】 (事業費 150 千円)

1) 畑用土壌改良材（ミネラルG）の購入助成（10%）

- ・対象作物（白ネギ・広島菜・キャベツ・カリフラワー・白菜・大根、高菜、あすっこ）
- ・助成対象者（JAに出荷を目的として栽培し、あらかじめ申告されている生産者）
- ・上限数量（ミネラルG（粉、粒含む）300k/10aを上限とする）

【6. 獣害対策品目の振興】 (事業費 150 千円)

1) 単価が安定し出荷作業も比較的容易なピーマンの更なる作付け推進を行います。

2) 島根おおち夏野菜の定番になりつつある「つるむらさき」の更なる面積拡大を目指します。

3) とうがらし他の獣害対策品目の栽培試験に取り組みます。

【7. 菌床しいたけの振興】 (事業費 300 千円)

1) 安定生産を目的に種菌メーカー（株）北研、森林組合・地域普及部と定期巡回を行います。

2) 安定生産を目的に新技術である加圧散水技術の普及を進めていきます。

3) 生産者の袋出荷が増加しており、出荷用袋に対する印刷の版代助成を行います。

【8. 花卉の振興】 (事業費 250 千円)

1) 島根おおち花き部会「しきの会」の部会員も増えたことで、〔H26年16戸（内2法人）⇒H27

年 18 戸（内 3 法人）] 更なる意見交換・情報交換の場を増やし産地拡大を目指します。

2) 集出荷体制の整備を検討し、資材の安価供給に取り組み生産者所得の向上に努めます。

3) トルコギキョウの振興を図ります。

① 県域品目に設定されている品目であり、各市場、県、統合 J A（本所）、各地区本部と情報交換を行い有利販売に努めます。

② 県、地域普及部と定期巡回を行い、安定生産技術の普及を図ります。

4) スプレーストックの振興

トルコギキョウとの輪作体系と冬場の作業として比較的栽培が容易なスプレーストックの栽培普及を図ります。

5) ケイトウの振興

① 女性部を中心に栽培面積の拡大を図っているケイトウの更なる栽培面積の拡大のため、計画的な講習会の実施と小面積でも取り組める生産資材の供給体制を整備します。

② 市場からの要望がある彼岸出荷の栽培技術確立を図ります。（苗・種代金助成）

6) 露地花卉類の振興

鳥獣害被害で生産意欲低迷の生産者・地域に被害が受けにくい露地花卉類の提案・栽培講習会を行います。（ケイトウ・アスター・リンドウ・ヒマワリ・葉ボタン）

資料①（生産・販売目標）

年 度	H26 年		H27 年（見込み）		H28 年（目標）	
	作付面積 (a)	販売高 (千円)	作付面積 (a)	販売高 (千円)	作付面積 (a)	販売高 (千円)
白ネギ	1,183	59,525	1,197	66,600	1,200	66,600
ナス	273	38,628	300	41,000	320	41,000
ミニトマト	252	40,278	220	44,400	260	50,900
ピーマン	106	9,981	109	11,100	115	12,000
キャベツ	370	6,537	410	10,360	450	10,100
広島菜	1,561	32,500	1,600	34,200	1,600	34,200
レタス	77	2,240	132	3,700	200	5,500
つるむらさき	71	6,166	143	10,600	170	12,500
エンドウ	81	6,726	47	4,600	60	6,000
菌床しいたけ	12 万個	91,847	12 万個	97,200	10 万個	97,200
トルコギキョウ	73	12,757	74	12,000	75	12,900
S P ストック	60	4,892	55	4,600	60	5,000
ケイトウ	80	3,987	65	3,600	70	3,700
合 計		316,064		343,960		357,600